

**■ H24 年度の収支見通し**

- 1 **自場売得金**は、10 月に開始した IPAT 発売による飛躍的な伸びにより、22 年度の 60 億円台、23 年度の 70 億円台に続き、24 年度は 80 億円台に達する見込み  
また、IPAT (約 8.7 億円) を除く売り上げ見込みは、3 月 19 日時点で、総額で対前年比 102.7%、一日当たりで 100.5%と微増に転じたが、その要因は、現金系売り上げの減少傾向に加え、売上増のけん引役である既存ネット発売が 5 月に突如失速、12 月初旬まで低迷したこと
- 2 **他場売得金**は、ネット発売の進展などにより、南関東 4 場を中心とした売上減が続き、発売日程の追加にもかかわらず 40 億円台を割り込んだ 23 年度 38.5 億円をさらに下回り、37 億円前後となる見込み
- 3 **収支状況**は、ネット発売の突然の失速により、上半期は 4 百万円の赤字を計上したが、第 3 四半期には IPAT 効果で収支は急速に回復、12 月補正時点では基金繰入なしで収支均衡が見込まれ、第 4 四半期には賞典奨励費等の引き上げを行っても、なお前年度規模の収支改善が見込まれる状況

**■ H25 年度当初予算編成の基本方針**

- 1 **運営方針**は、IPAT を含むネット発売による自場売得金の好調な伸びを千載一遇の好機と捉え、最大限かつ効果的に収支改善につなげていくとともに、人的物的競馬資源の充実確保に努め、持続的な運営改善による高知競馬の再生を目指す
- 2 **財源対策**は、IPAT 発売の平年化による自場売得金の一層の伸びが期待される一方で、福山競馬の廃止に伴う 70 百万円規模の減収が見込まれ、また新たに開始する JRA 発売による増収と自場、他場の売り上げへの影響も考慮し、さらに他主催者の開催動向も踏まえ、より慎重な財源対策を行う
- 3 **新たな連携**として、JRA 連携の本格化と併せ、ポスト福山対策として新たな他場との連携構築を目指し、相互発売の拡充に向けた多様な番組企画、人馬の交流、異業種と連携した企画広報、開催日程の調整など、新たな市場の開拓、拡大につなげる
- 4 **施設設備の改修**は、空調、トイレ、宿舍、馬房など老朽化した施設設備の効果的な改修を精査し、ファンサービスの向上や関係者の住環境整備の計画的な進捗を図る

## ■ H25年度の新たな取り組み

### 1 <<新たな連携軸の創出>>

- 1) **日本中央競馬会 (JRA)**とは、自場売得金の継続的な拡大に向け、JRA3 兆円市場との相互発売の開始に併せ、広報やファンサービスなど積極的な企画を展開し、連携軸の強化に努める
- 2) **岩手競馬ほか他場**とは、ポスト福山対策として新たに他主催者との相互発売や広報の強化、交流企画の実施をはじめ、市場共有の本格化、深化に努める

### 2 <<新たなファン層の開拓>>

地元・全国ファン向けの「福永洋一記念」、「夜さ恋フェスティバル」、「新人王争覇戦」、地元ファン向けの「年末年始（薄暮開催）」などの主要イベントをはじめ、幅広い層に向けたイベントの工夫、拡充に努める

## ■ H25 当初予算案の概要

【単位：百万円】

### 1 予算規模 8,981 対前年比 112.5% (H24:7,982)

- ・ 財源不足（基金繰入） 22 ( 54)
- ・ 主要増減  
自場売得金 +1,136、IPAT 発売委託料 +143、賞典奨励費 +89  
業務協力金 -31、P 藍住運営委託 -23、共同 TZS 利用権料 -23

### 2 主要経費

- 1) 自場売得金 8,284 +15.9% (H24:7,148)
- 2) 業務協力金（差引） 461 -6.3% ( 492)  
他場売得金 3,965(うち JRA600) +3.0% ( 3,848)
- 3) 賞典奨励費 605 +17.2% ( 516)  
\* 諸手当の改善 +10%、賞金の引上(1着+10~+150千円/R)
- 4) 従事員等賃金 186 +20.8% ( 154)  
\* 従事員、整理員、係員、臨職、清掃員：+10%、増員
- 5) 給与費 69 -38.9% ( 113)  
\* プロパー職員 10人→6+1(再任用)、給与カット -10%→-5%
- 6) 払戻金 6,169 +16.2% ( 5,311)  
うち引上 17 (払戻率 74.3% → 74.5%)
- 7) 限り経費
  - ・ 汚水処理施設改修 9、P 高知高圧機器類更新 1.5  
トイレ改修 1.2